

当院がお勧めするワクチン予約のコツ



ポイント① 生後2ヶ月から開始する

幼ければ幼いほど感染症は重症化します。出来るだけ早い年齢から始めましょう

ポイント② 罹りやすく重い感染症のワクチンを優先する

細菌性髄膜炎(ヒブ・肺炎球菌)、百日咳(4混 DPT-IPV)は乳児には命にかかわる重症感染症です。ロタは毎冬・春に流行する急性胃腸炎で、乳児が初めて罹ると重症化して脱水やけいれんで入院することもあります。B型肝炎は慢性化すると成人になって肝がんや肝硬変を発症する危険があります。これらは接種年齢に達したらすぐに接種しましょう。1歳になったら麻疹・風疹・水痘・おたふくを接種しましょう。特に水痘おたふくは毎年流行し集団生活ではうつりやすい病気です。

ポイント③ 同時接種を行う

生後2～6ヶ月の間に行うべきワクチンは多く、単独接種では間に合わなくなります。接種が遅れる分、その間に罹るリスクが高くなります。海外では5-6種の同時接種が標準です。

ポイント④ 先の日程まで細かく決めすぎない

接種日直前に風邪をひくなどして予定通りに出来ないことが多々あります。延期をすれば次の接種予定にも影響するため、数回先の日程まで予約すると混乱します。まず接種順番だけ決めて、接種の度に次回の日程を決めましょう。

ポイント⑤ 任意接種も検討する

おたふくかぜのワクチンは世界的には定期接種ですが、日本のワクチン行政が遅れているため任意接種扱いになっています。自費負担にはなりますが助成もあり、罹りやすく重い合併症も起こし得る疾患なので出来るだけ接種することをお勧めします。

ポイント⑥ 接種年齢制限に注意

ロタは生後6ヶ月までに終わらせる必要があります。麻疹や肺炎球菌追加接種は1歳前では公費負担されなくなります。MR・水痘・おたふく同士は4週以上空ける必要があります(例:MR接種後は水痘接種を4週以上空ける)は。その他のワクチンは接種翌日から次の接種が可能です(例:MR接種翌日にヒブ接種可能)。B型肝炎は全年齢で接種可能ですが1歳前をお勧めします。



ワクチンデビューの方にお勧めする2歳までの接種順番

* () は任意接種 間隔は4週間空ける

1回目: 生後2ヶ月

肺炎球菌①+ヒブ①+B型肝炎①+4混*①+ロタ①

2回目: 生後3ヶ月

肺炎球菌②+ヒブ②+B型肝炎②+4混*②+ロタ②

*ロタは2回で終了。B型肝炎追加は1回目接種20週以後。

4混=ジフテリア+百日咳+破傷風+不活化ポリオ

3回目: 生後4ヶ月

肺炎球菌③+ヒブ③+4混③

*肺炎・ヒブ・4混の追加は1歳以後。

4回目: 生後5ヶ月

BCG

5回目: 生後7ヶ月～1歳未満

B型肝炎③ *B型肝炎は終了 1歳になると公費負担終了するので注意

6回目: 1歳

MR① + 水痘① + (おたふくかぜ①)

*MR・おたふくは小学校入学前、水痘は3-6ヶ月後から3歳までに追加接種。

7回目: 1歳1か月以後

肺炎球菌④+ヒブ④+4混④

*肺炎・ヒブ・4混は終了

8回目: 1歳3か月～3歳未満

水痘② *水痘は終了 3歳になると公費負担終了するので注意

注意: ロタの2回目は生後24週(6か月)を過ぎると出来ない。

ヒブ・肺炎球菌は1回目が生後6か月を過ぎると接種出来る回数が減る。

BCG以外の生ワクチン(MR・ロタ・水痘・オタ7ク)は2回接種が必要。

